

「第1回子どもの読書活動推進研修会」を開催するにあたって
今、われわれは、何をしなければならないかを考える研修会に

1 「読書は、子供の知的活動を増進し、人間形成や情操を養う上で、学校教育において重要な役割を担っている。また、今日、社会の情報化に伴い、多くの情報の中から子供自らが必要な情報を収集・選択・活用する能力を育成することが重要になってきている。しかし一方で、子供の読書離れや活字離れといった事態が指摘されている。」「国、地方公共団体、学校などの関係者が、本報告を踏まえて、必要な施策の実施に速やかに取り組まれるように強く期待する。」「人々の読書の重要性に対する認識が高まり、改めて子供に読書の喜びや楽しさを伝え、新たな文化の創造の活力となることを切に願うものである。」

（「児童生徒の読書に関する

調査研究協力者会議報告」）

みなさんは、周りの子どもたちの読書活動の現状をどう受け止め、子どもの読書の意義や子どもの読書離れについてどのように考え、取り組んでおられるのだろうか。

2 「子ども読書年」（平成12年）の取り組み。「子どもの読書活動の推進に関する法律」の施行（平成13年）。「同活動推進計画」の策定（平成14年）。国の子どもの読書活動を支援する施策を受けて、大分県でも「大分県子ども読書推進計画」（おおい子どもライブラリー計画）を策定している（平成16年2月）。

そして、12学級以上の学校に司書教諭を発令（平成15年）。

これらの動きを「子どもの読書活動推進、学校図書館に追い風が吹いている」などという人がいるが、そうだろうか。手をこまねいていて子どもの望ましい読書環境は整備充実するわけがない。本研修会を契機に、まず現状をきちんと点検して、課題を明らかにしていこう。そして法の理念が確実に生かされ、実体化するまで運動を進めていこう。

3 小中学校新学習指導要領の実施、完全学校週五日制スタート（平成14年）。いよいよ学校図書館の出番だ、学校図書館が必要な時代が来た。例えば、総合的な学習の時間が本格的始動したことから、子どもが、課題を自ら調べ、資料を集め、まとめ、発表するというプロセスひとつを考えてみただけで、豊富で多彩な資料と学校図書館の機能を十分発揮して学習を助け、問題解決に導く司書教諭や学校司書が欠かせないことは論を待たない。

自ら学び、情報化時代を生き、真の情報リテラシーを身に付けていくために、学校図書館は、まさに学校の心臓部である。その重要性を多くの人に知ってもらおう。

4 「子どもの読書活動推進法」を受けて、小中学校の学校図書館を増やすために年に130億円を地方交付税で措置しているにもかかわらず、予算化されていない市町村が多いこと。学校司書は置かれず、小規模校のため司書教諭もいない学校が多いこと。自ら学ぶために、学校図書館が十分活用されていない学校が多いことなどの現状を、どのようにして変えていくか。みなさんと真剣に考えてみたい。

概略、以上のようなことから、長年にわたる本学の司書および司書教諭の養成の経験を生かして、子どもの読書活動推進に携わっている多くの方の資質向上と経験交流の機会を提供するために、「第1回子どもの読書活動推進研修会」を実施することにしました。

後援をいただいた大分県教育委員会をはじめ諸団体および講師をお引き受けくださった先生方、そしてご参加いただいた皆様に心から感謝を申し上げます。